

対人援助学の里程標

サトウタツヤ

(立命館大学)



なんの因果か因縁か、学問の歴史に興味をもち、研究を始めて早くも20年。対人援助学会のメルマガでも歴史を連載することになりました。

動機の一つは歴史というものに興味を持つ人が増えてほしい、ということにあります。多くの方は中学や高校の歴史の授業の結果アレルギーをもっているようで、歴史と聞くだけで拒絶反応を示したりします。年号や出来事を覚えるだけなんて面白くないし大変、というわけです。この連載では、細かな年号にこだわるのではなく、出来事の大きな流れについて考えたり共感したり時には反感を感じてほしいと思います。

最近、私は臨床心理学史の執筆を行っているのですが(書き始めたのは5年前!終わらない・・・orz)、臨床心理学史の論文や本を読んでいると、前史がシャルコーからはじまることが多いということに気づきました。なぜか。フロイトの精神分析とその流れをくむ心理療法が臨床心理学の主流だという意識が強いからです。しかし、このような考え方は過去のものになるべきかと思われまます。フロイトの精神分析が多くの功績をあげたことは否定しませんが、現在の臨床心理学は決して精神分析だけで語ることはできないはずで

そこで初回はライトナー・ウィトマー(Lightner Witmer; 1867 - 1956)をとりあげてみましょう。彼こ

そが Psychological clinic を創設し、Clinical psychology という言葉を作り上げた人だからです。

ウィトマーは1867年6月28日、フィラデルフィアに生まれました。アメリカでは南北戦争(American



Civil War, 1861 - 1865) 直後、日本で言えば明治に改元される直前ということになります。ペンシルベニア大学を21才で卒業したあと、二年間教職につきました。その後大学院に入学を決意しましたが、その時の専攻は哲学で

した。ところが、ジェームズ・マクィーン・キャテルが赴任してきたことにより、専攻を心理学に変更しました。このキャテルという人物はドイツのヴントのもとで学び、個人差の研究を心理学に導入したことで知られています。ところが、そのキャテルがコロンビア大学に異動してしまい、ウィトマーは「ハシゴを外された」状態に陥ります。そこで彼が選んだのがドイツへの留学でした。ライプツィヒ大学に留学し実験心理学を学び博士号を取得したのです(1892)。帰国した彼はキャテルが異動した後のペンシルベニア大学に戻り心理学を教えることになりました。1894年には児童心理学の講義を担当したことが分かっています。

そして1896年には同大学に世界初の

「psychological clinic (心理学的クリニック)」を創設したのです。そして大学院生の訓練システムも整えていきました。さらに、1907年には『Psychological Clinic』という雑誌を創刊するにいたります。

彼は「clinical」な心理学にどのような意味を込めていたのでしょうか。彼が自ら『Psychological Clinic』の創刊号に執筆した論文(Witmer, 1907)を見てみましょう。

ウィトマーは「clinical」という語を臨床医学から借りたものであるとした上で、医学において「clinical」は、単に場所を示す言葉ではなく、それ以前の哲学的・説教的な医学から脱却する時の方法を示していたと述べています。医学においても患者さんの状態を顧みないで診察治療をしていた時期があったのであり、それを打破するための「clinical」概念だったのです。心理学においても「clinical」が重要だということを彼は以下のように述べます。

While the term 'clinical' has been borrowed from medicine, clinical psychology is not a medical psychology.

これを日本語にしてみれば

‘臨床’という語は医学から借りてきた語ではあるが、臨床心理学は医学的心理学とは異なる。

ということになります。しかし、この文章をどう理解するか、チマチマした話ですが、この文書にこそ、ウィトマーの心意気が現れているのです。

アメリカにおける医学的心理学というのは、今日では精神医学に合流してしまった流れです。従って、ウィトマーは医学とは一線を画したいと思っていたと思われます。実際、彼が対象にしていたのは失読症もしくは読字障害の子どもたちでした。

さらに臨床心理学は、哲学的思索に由来する心理学的・教育学的原理への異議申し立てであり、実験室の結果を教室の子どもたちに直接に適用しようとする心理学への異議申し立てである(Witmer, 1907)。

という文章もあります。

これまで、ウィトマーの臨床心理学や心理学クリ

ニックはあまり評価されていませんでした。それは精神分析やカウンセリングという方法と少し異なっていたからだと思われます。対人援助という光のあてかたをするなら、もう一度、異なる評価が可能になるかもしれません。

Witmer, L. 1907 Clinical Psychology. Psychological Clinic, 1, 1-9.

写真の出典：ペンシルバニア大学アーカイブ

<http://www.archives.upenn.edu/home/archives.html>